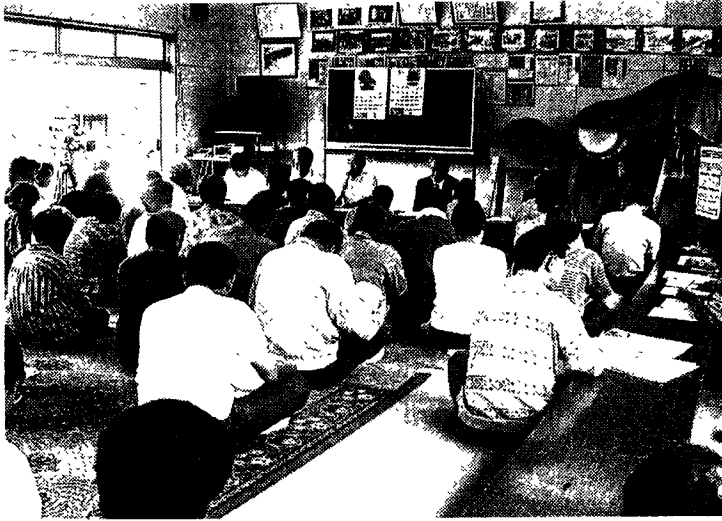


週内に県へ計画提出

ト去
シルト撤
口主
フェ自

説明会で 責任認め住民に謝罪

微量な放射性物質を含む埋め戻し土「フェロシルト」が埋められていた県内5カ所から、フェロシルトを自主撤去することを決めた製造元の化学メーカー「石原産業」(本社・大阪市)は12日、可児市大森地区で住民説明会を開き、今後の撤去方針などについて地元住民と意見交換した。同社は、



フェロシルトの撤去方法などについて話し合った住民説明会。可児市大森で12日

今週中にも撤去計画を県に提出することを明らかにするとともに、撤去したフェロシルトを同社四日市工場内に持ち込む意向を示した。

住民説明会には、同社の安藤正義・常務取締役四日市工場長ら同社側3人のほか、フェロシルトをリサイクル製品に認定していた三重県環境森林部の担当者3人も出席した。同地区で、同社と三重県による住民説明会が開かれるのは2回目。

同地区には9600トのフェロシルトが埋められていることが判明しているが、土地所有者に無断で埋められていたり、フェロシルトが埋め戻し材でなく植物生育材として販売されていたこともあり、住民側には根強い不信感があった。説明会で安藤工場長はこの点に

触れ「管理不行き届きがあった。製造メーカーの責任で回収させていたが、迷惑をかけて申し訳ございません」と陳謝した。今後の撤去にあたり、住民からは「撤去作業を監視したい」「撤去前に急的な防水・排水措置をしてほしい」などの要望が出された。一方、住民はフェロシルトをリサイクル製品に認定した三重県の認定制度も批判し、謝罪を求めた。謝罪の言葉はなかった。【式守克史】

「フェロシルト」愛知、三重県と話し合いへ

有害物質が含まれている「フェロシルト」の話し合いが始まっており、三重県でも有害物質の無を調べる調査に入っている。フェロシルトは愛知県瀬戸市に2か所で約30万ト、岐阜県には可児、瑞浪、土岐、恵那市の計5か所に3万ト、三重県内ではないが、

四日市、亀山、久居市の計6か所で約30万トが、土壌補強材として使われた。市民団体が「放射性物質が含まれている」と問題視している。このうち、岐阜県の調査では、放射線は問題なかったが、3か所で六価クロムなどが環境基準値を超えた。12日には可児市大森地区で説明会が行われ、同社の安藤正義常務が「1週間で撤去計画案まとめた」との考えを示した。

ため、同社が県の要請を受けて、すべてを撤去することにした。

一方、愛知、三重県の造成地からは有害物質は確認されていないが、同社は、両県に対し、撤去や洗浄などの対応策を今後、話し合っていく姿勢を伝えた。

愛知、三重、岐阜、福井

6月14日(火曜日)